

第1回審議会（12月8日開催）における委員からの主な意見

総合

- アンケートからみても5年前と新幹線ができて背景が異なる。当時と比べて乖離しているもの、現状にあっていないものの方向性をつくっていくことが大事である。
- 新幹線の小浜ルートの話もそうだが、正しいデータに基づいた議論が行われればおのずとある方向へと収束していく。具体的なデータに基づく議論が重要である。
- 富山で生まれ、育ち、結婚し、子育てし、亡くなってそれでよかったなと思える富山をつくりたい。
- 前回作られたものも精緻な計画であり、指標も進捗しており、実効性の面で効果があったものが多いと感じている。ただ、難しい問題は事業継続性だと感じており、例えば林業などは長続きする仕組みを作ることが必要である。
- 地域委員会を新たに設けて県と市町村が施策を連携させていくとのことで、市町村もしっかり責任をもち意見を言っていきたい。
- 信頼を回復する富山を作り上げてほしい。
- 現状把握が大事であり、ビッグデータなど数字の根拠、エビデンスをとらえた上で今後の富山県の取り組みをつくっていくことが必要である。
- 直接人口を増やすのが難しく、残った住んでいる人たちをいかに幸せにするかという政策が重要である。
- 県と県内15市町村が連携して計画を練っていくことが必要である。

活力

- 働き方改革、人材育成ともに中小企業も含めて進めていくことが必要である。
- 新幹線効果も落ち着き観光もだんだん足が遠のいた感があり、自然を活用した魅力ある観光地づくりが重要である。
- 産業基盤の維持拡大のためには高付加価値の新規分野の開発と労働生産性の拡大が必要である。高付加価値化にはブランド化の推進、労働生産性向上には企業の中規模化の促進、女性の労働参加率の増加、将来への企画開発研究が必要である。
- 豊かな自然環境と豊富な水資源を活かした農林水産業が今後成長することが考えられる。農業では適地適作の観点から、米作を発展させ、例えば粉食に適した米の開発研究が期待される。
- 林業では、CLT やバイオマスエネルギーなど県内の森林資源がシームレスに循環していく産業基盤を作ることが必要である。
- 人口の社会増のため、中心市街地の活性化により消費生活が楽しめることが必要である。中央部だけでなく県西部への行政の投資を増やすことや、企業が適切に給与配分を増やして消費を上昇させることが重要である。例えば、公契約に価格条件に加えて企業の雇用状況を要件として加えるなどの工夫が考えられる。

未来

- アンケートで富山の魅力形成との項目があった。そこで教育環境や子どもが上位にきている。将来世代に向けて種をまくものが何かを考える必要がある。
- 夫の子育て参加が47都道府県で最下位との記事があったが、男女の意識改革や教育が必要である。
- 日本語ができなければ、英語、数学、化学もだめなので、国語を重点的に教育することが必要である。
- 子ども、大人、高齢者まで楽しめるような全天候型の文化スポーツ施設の建設について盛り込んでほしい。

安心

- 少子高齢化、人口減少社会において、県民が住み慣れた地域で安心して暮らせるため、医療、福祉、介護の連携が重要である。
- 高齢者に対する特殊詐欺も近年問題であり、消費者や消費生活というキーワードも今後重要となってくる。
- 医療はより近いところで受けられるのが皆の願いであり、県内医療の充実が必要である。
- 介護福祉士の養成校も全国的には定員割れで40%くらいが潰れている。介護の職員が集まらず事業者もやめていく。これが現実である。老後、障害者の方に最期まで富山で死んでもらい、死んでよかったなという富山を作りあげてほしい。
- 県内の4つの介護福祉士養成校については潰れる心配はないが、福祉人材が足りないのは事実。外国人の介護の技能労働者の受入れも決まり、これへの対応を含め、富山型の人材育成を打ち出していく必要。
- 高度先進の医療、iPSなどが入ってくるし、オプジーボなど高い医薬品もあり医療費を圧迫している。10年後といわず、今年、来年、医療、介護福祉をどうするべきかを考える必要がある。
- 障害者差別解消法や条例に基づく取組みが重要。障害者の防災訓練で、一般の人が障害者の方が避難するのに何が障害になっているか、どうサポートすればよいかかわかるため、そういった取組みを続けて定着していくことが必要である。
- 安心・安全なまちづくり望まれており、住みよい富山県としていくことが必要である。

人づくり

- 日本の生産性は欧米に比べ低い。IT、システムを生産性を上げる道具として、教育をし、企業としても取り組んでいくことが必要である。
- 日本に問われているのは人の力で、数と質、クオリティ、人の力が重要である。
- 人口の社会減を食い止めるため特に女性に富山県に戻ってきてもらうことが必要である。若い女性が希望する職場を増やしたり、工業系の職場の意識改革が必要である。
- 人づくりに関して、思いやりの心を小さい時からの子育て教育で教えることが必要である。
- 高齢者がこれまで培った知識、経験、技能について、若者を育てるために活用することが必要である。漁業共同組合でも進めているが、企業でも進めていくことが必要である。
- 子どもが芸術文化活動に出会い、親しみ、参加し、交流し、発信していくことが必要である。グローバル化の時代、芸術分野でも世界に羽ばたく人材の育成が重要である。